

広葉樹はおもしろい ～旭川銘木市を活用する～

道央ランバー株式会社 藪 征治, 藪 崇



■はじめに

当社は1985年、単板製造およびそれを用いた複合フローリングの製造工場として創業しました。その数年後には、中国に単板製造の合弁会社を設立しました。現地のナラ材を単板に加工する工場です。製造した単板は全量を芦別に運び、下地材と積層接着して複合フローリングを製造し、永大産業や大建工業などの大手建材メーカーに納入していました。合弁会社を立ち上げたタイミングが天安門事件の起きた時期（1989年）と重なり、渡航や中国国内での移動に苦労した覚えがあります。中国に進出したのは、良質なナラ材が比較的容易に入手できたこと、および人件費の安さが魅力だったことによります。その後、日本国内で使用される複合フローリングの表面材が天然木単板から化粧シートに大きくシフトし、また中国でのナラの入手が難しくなったので、単板製造の合弁会社から撤退することになりました。そこで、次に始めたのが広葉樹の製材です。20年ほど前のこととなります。

■さまざまな広葉樹, さまざまな加工

当社では道産広葉樹を中心に、数十種類の広葉樹を扱っています（表）。このような多種類の広葉樹をコンスタントに入手できるルートは旭川林産協同組合主催の「北海道産銘木市」（以下、旭川銘木市）以外にはなく、当社の広葉樹入手はほぼ全量を旭川銘木市に拠っています。最近よく仕入れている樹種は、ナラ、ホオノキ、エンジュになります。

ナラは、宮崎県でウイスキー樽を製造している企業から柾目材の注文があります。なお、曲がりのある原木から板材を取ると液もれ（揮散）が大きくなることから、素性の良い柾目材を製材できる原木を確保することが課題となっています。

ホオノキは、彫刻材としての用途があります。シナ、カツラも同様の需要がありますが、彫刻材はやはりホオノキが中心です。立体彫刻用に厚さ150mm程度で製材することもあります。ホオノキは割れが入りやすいため、取り扱いには注意が必要になります。

エンジュは、塗装ブラシの柄や輪切り材のコースターとしての用途が中心になります。輪切り材は本州のホームセンターに相当量を出しています。エンジュは虫が入りやすい樹種なので取り扱い（保管）には気を使います。

ミズキ、カタスギ（アズキナシ）といった希少な材が銘木市に出品されたときには、用途が決まっていなくても仕入れるようにしています。最近ではシンジュ（ニワウルシ）を仕入れました。シンジュの木部はケヤキに少し似た色合いを持っています。これも決まった用途があったわけではありません。希少な木材をコレクションされている方がいて、ネットに出すとなくなると買い手がついていくのが広葉樹のおもしろいところです。

表 取り扱っている樹種（抜粋）

産地	樹種
国産材	アカシア, アオダモ, アサダ, イチイ, イチョウ, エンジュ, イタヤカエデ, カタスギ (アズキナシ), カツラ, カバ (メジロカバ, マカバ, ザツカバ, シラカバ), キハダ, クルミ, クリ, クワ, ケヤキ, コブシ, サクラ, シデ, シナ, シウリザクラ, セン, タモ, トチ, ナラ, ニレ, ハンノキ, ブナ, ホオ, ポプラ, ミズキ, ヤナギ, ドロノキ, リンゴ
外材	ウォルナット, チェリー, サペリ, アッシュ, 南洋材, 唐材
その他	埋もれ木 (神代), 杢, 瘤

■バット

バット用材の取扱いは5年ほど前からになります。富山県のバット製造企業からイタヤカエデとホオノキの角材の発注を受けたことがきっかけになります。ミカン割りした製材を円柱に加工して納入していましたが、品質に対する要求が厳しく、採算を取るのが難しい取り引きでした。そこで、富山県企業への納入とともに、木工旋盤を自社で工夫し、当社でもバットの試作をはじめました。昨年頃からようやく安

定した製品が製造できるようになり、自社ブランドでの販売が始まっています。なお、現在は富山県企業への納入からは手を引いています。

製造工程は次のとおりです。

- 1) 角材 (75×75mm) に製材 (写真1 上段)
- 2) 荒く丸削り (写真1 下段, 写真2)
- 3) 仕上げ加工
- 4) 塗装 (写真3)
- 5) 板目面にロゴマーク印刷 (写真4 レーザー加工)



写真1 バット原料

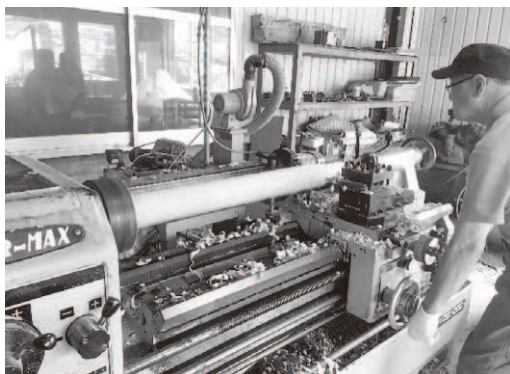


写真2 旋盤による加工

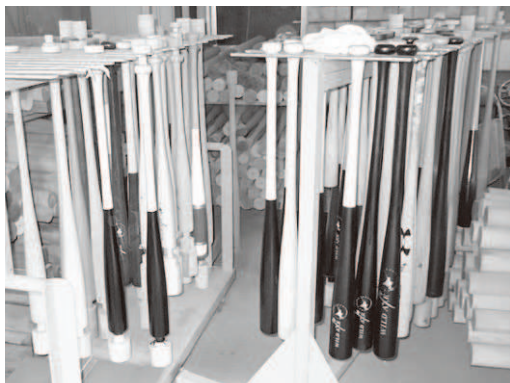


写真3 塗装



写真4 オリジナル ロゴマーク

斧を振り回すという意味を込めた「WILD AXE」と北海道産と芦別を示すマークをレーザー加工で入れている

現在、トネリコ、メジロカバ、ニレ、イタヤカエデの4樹種の製品を販売していて、トネリコとイタヤカエデが定番です。また、求めに応じてエンジュ、サクラ、アサダ、ホオノキなどでバットを作ることもあります。エンジュは粘りがあり、アサダは少し重量があるなど、それぞれに特徴があります。これらの特徴や使い勝手、適性を知るため、北海道ベースボールリーグに加盟している土別サムライブレイズと富良野ブルーリッジの2チームの選手に、練習用として使用してもらいはじめたところです。それぞれの選手は重さやバランスの感触を確かめてバットを選んでいました。また、地元芦別高校の野球部でもノック用バットとして使ってもらっています。さらに、今年から芦別市のふるさと納税の返礼品としても取り上げてもらい、何件かのご希望をいただいています。

■これから

広葉樹は実に多種多様で、それぞれに魅力があります。当社のように道産広葉樹を主体に、数十種類の樹種を取り扱い、在庫している製材企業はあまりないのではないかと考えています。これからも、旭川銘木市が近くにあるという地の利を活かし、広葉樹に関わっていきたいと考えています。

(本稿は道央ランバー株式会社・薮征治社長、薮崇氏のご説明を取りまとめたものです。また、広葉樹に関する説明については道総研林産試験場・佐藤専門研究員の確認を得ました。それぞれの方々に深く感謝いたします。編集部)